

事例①「新百合ヶ丘第5自治会自主防災組織による防災訓練の取組み」概要

発表者：新百合ヶ丘第5自治会自主防災組織 平塚 弘司 本部長

1 防災訓練をめぐる問題意識と背景

- ・自主防災組織＝自治会役員であり、役員は1年交代のため、継続性に問題があり、また熱意や考え方でもばらつきがある。例えば訓練の捉え方について、お祭りのようなイベントして捉えている方と、真剣な訓練として行わないといけないという考えの方がいる。
- ・これに加えて、現在のコロナの状況下、集合訓練が困難という事情もあり、試行錯誤の上で実施した。



2 訓練の位置付け

- ・災害状況の理解や、自身が期待されていることについて、メンバーが同じ前提に立っていないと考えたことから、その点の理解に受点を置くこととした。
- ・自主防災組織の本部員約20人を対象に、電話での通報訓練、災害状況に関する勉強会、それらに基づくワークショップ形式によるディスカッションと発表、という内容とした。

3 実施した内容

- ・通報訓練は、約10世帯を束ねる55人の班長に連絡をし、役割を認識してもらうことを狙った。
- ・ワークショップでは内閣府や川崎市の資料を基に、王禅寺東地域の被害想定を、やや厳しめに作成した。
- ・ディスカッションのテーマは ①災害発生直後の初動 ②自主防災組織として活動をはめる際の動き ③避難所開設を含む自主防災組織としての守備範囲と優先順

位付け ④課題と解決策のヒント の4つを挙げた。④まではなかなか行けなかった。

- ・議論が漂流しないよう、ディスカッションのポイントを示した。

4 成果と課題

- ・実施後のアンケートでは「訓練の必要性がわかった」「自主防災組織の問題点がわかった」といった意見があり、問題意識を共有できたという点で、一定の効果があったと考えている。
- ・今後の課題は、これを継続していけるかどうか。20人の役員を1年交代で務めると、10年続ければ200人の理解者ができることになる。そうしたことを目指して今後も継続していければよいと思う。
- ・訓練には、平常時の活動と発災時の活動、本部である必要があるものと全世帯がやるものなど、色々な切り口がある。ネタはたくさんあると思う。
- ・今回訓練をするにあたって参考にした情報は以下のとおり。

内閣府

- ・被害想定：http://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/taisaku_wg/index.html

川崎市

- ・「川崎に大地震が起きた日」：
<https://sekishinkai-zaitaku.jp/file/rnt/news/1034.pdf>
- ・被害想定：
<https://www.city.kawasaki.jp/170/cmsfiles/contents/0000017/17669/2503gaiyou.pdf>
- ・ハザードマップ：
<http://portal.kikikanri.city.kawasaki.jp/normal/general/enlight/0000000352/enlightinfo.shtml>

麻生区

- ・麻生区防災タウンページ
https://bosai.itp.ne.jp/uploads/pdf/1911_1301-1_kawasaki-asao_kanagawa.pdf
- ・地域防災計画

<https://www.city.kawasaki.jp/asao/page/0000035965.html>

- ・避難所運営マニュアル

<https://www.city.kawasaki.jp/170/page/0000056988.html>

その他

- ・地震発生！そのときどうする？

http://www.town.keisen.fukuoka.jp/pdf/benri/hazard_guide03.pdf

